

令和6年度赤磐市研究指定校園 授業公開

令和6年10月9日赤磐市立山陽小学校

10月9日に山陽小学校で「赤磐市研究指定校園補助事業」に係る授業公開が行われました。

山陽小学校の校内研究のテーマ

主体的に学ぼうとする子供を育てる
～「指導の個別化」と「学習の個性化」の具体を通して～



3年生
「火事からまちを守る」

山根富貴 教諭



1年生
「いきものとなかよし」

高本静香 教諭

キーワード
考えをもつ・自己決定・他者参照

3年生は火事からまちを守るために自分や家族にできることを考え、伝え合い、新たな学びを得るという授業でした。

ICTを活用し、**友達のを考えを一斉に参照**することで、「なるほど!」「自分にもできそう!」などと思ったことを自分の考えに取り入れました。

授業では自分の考えをまとめるツールにタブレット、ノート、ワークシートを選択できるようにしたり、気づきを伝える時にもタブレット、付箋紙等を選択できるようにしたりと**学び方を自己決定できる場**が設定してありました。

一人一人が事前に自分の考えをもっていたことや自己決定の場が設定されていたこと、友達のを考えをたくさん見ることができ仕掛けにより、子どもが他者とだけではなく、自分自身と対話する主体的な姿も生み出しました。

キーワード
幼児教育との接続・自分との関わり

1年生はつかまえた虫について、観察を通して見つけた「ひみつ」を伝え合う授業でした。

子ども達は一人一つの飼育ケースを持ち、その中には**自分だけの虫**がいて「伝えたい!」という気持ちであふれていました。より多くの友達に「ひみつ」を伝えるためにタブレットで虫の写真を撮りそこに「ひみつ」を書き足しました。

子ども達は小学校入学以前に虫と遊ぶ経験をたくさんしており、手のひらで動き回る感触や動きの面白さ、飼育の大変さや死んでしまった時の様子など虫に関わる多くのことを原風景としてもっています。それら**幼児教育での学びを土台**とした授業を構想することが、自分の知っている虫の「ひみつ」を「伝えたい!」「知りたい!」といった子ども達の主体性とワクワク感の喚起につながりました。



【指導助言者】姫路大学教育学部 講師 津下哲也 先生
津下先生からは、ICTの授業での活用についてのご助言をいただきました。「何をめざした授業をするのか。そのために**ICTの利点**がどのように生かせるか。」「**授業のねらいを達成するための活用**」という視点を忘れてはならないというお話でした。その中で、ご自身の実践等を例に挙げながら主体的に学ぶ子どもの様子とICTの活用を関連付けながら具体的に示してくださいました。

研究協議では、山陽小学校の先生方の研究に対する熱意をととても強く感じました。子ども達の「できた!」「わかった!」「もっとやりたい!」などといった、主体的な姿を生み出したという思いが、研修を自分事とさせているのだと思います。

そんな思いが市内にどんどん広がっていくことを願っています。